

2021年1月25日

寿都町長 片岡春雄 様

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

要望書

町政懇談会・まちづくり懇談会の開催を要望します

近年、貴殿は、ニセコのアンテナショップやバジル、新法人のDMO設立など、新ビジネスと主張して次から次へと事業に手を出してきましたが、これらすべてが中途半端であり決して成功しているとは評価できず、町民はその行く末を心配してきたところでした。また昨年、町民の意見を無視して、高レベル放射性廃棄物最終処分場の文献調査への応募を行い、片岡町長に町政を任せておいて大丈夫なのかと、町民の不安は頂点に達しています。

当会で調べたところ、片岡町政の元で平成4年から平成20年までは毎年「まちづくり懇談会」が開かれていました。その後、平成27年に7地区で開催されましたが全町レベルでの開催はしておりません。さらにこの13年間は全町レベルでの懇談会は、全く開催されなくなったというのが現状です。

私たち町民と町は協働で、令和元年度に「第8次寿都町総合振興計画」を策定しました。その65ページには、「すべての人が輝く協働のまち」とあり、積極的な広報広聴活動と情報公開の充実、住民説明会や各種懇談会において直に町民からの意見を聴取する機会を設けるなどの記載がありますので、本計画に基づいて「町政懇談会・まちづくり懇談会」を開催すべきと要望します。

ところが、本計画には開催時期については記載されておらず、「努める」とありますので、現在のところ、いつを目標にどのような開催計画があるのか、努めると記載された後の具体的な目標値などを、ぜひ町民にお知らせください。もちろん直近の開催予定などがあれば、お知らせください。もしも開催予定が無い場合は、先の開催計画とそこへ向けたロードマップなどの開催への道のりを、具体的にお教えください。

また貴殿が、町民の声を肌感覚で理解し、応募した文献調査についてですが、現在の事業推進役として原子力発電環境推進機構＝NUMOが町に入りつつ、事業推進にあたっています。そのNUMOと町民の対話の場を設置しようとしています。そもそもNUMOは地層処分推進のための法律に基づく機関なので、寿都町のエネルギー政策や町政をどうすべきか？という議論にはならず、対話の場と称しているものは、あくまでもNUMOの事業説明の場、反対派のガス抜きにしかならないと考えます。不要ではありませんが、すでに議論の幅や結論が見えている場づくり＝事業推進へのアリバイづくりである、と考えます。

今、町がすべきことはNUMOの事業推進用の対話の場づくりではなく、これまでの町政の進め方、行財政に関する正確で正直な情報提供、そしてこれからの寿都町の未来を考えるための町政懇談会、町民との意見交換の場です。貴殿の夢を実現させるために、この町があるわけではありません。貴殿一人の決断で、ここまでの事業を進められることに心の底から危惧を覚えている町民へ、説明や意見交換の場、本当の対話の場を設けてください。町民の意見を聞く町政であるよう、当たり前のことを進めてください。

町民の代表者である町長、そして理事者と役場職員の皆さんにお願いします。町民と行政の協働の場としての「町政懇談会・まちづくり懇談会」を、全町にて公開で開催することを求めます。

なお、本要望書の回答は、2月8日までに、文書にてお願いいたします。

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会
共同代表 南波 久・本田 英人・三木 信香